保存版

令和3年

江津市防災マップ

市民提供写真

- 日頃からの備え
- 水害から身を守る
- 土砂災害から身を守る
- 豪雨災害における避難について
- 火災対策
- 震災から身を守る
- 避難生活について
- 避難情報について
- 防災情報について
- 避難所一覧
- 洪水・土砂災害ハザードマップ
- 地震ハザードマップ
- 津波ハザードマップ

- わが家の防災メモ
- 防災関係機関連絡先

江津市PRキャラクター
「人麻呂くんとよさみ姫」

江津市

はじめに

この防災マップは、各種災害（洪水・土砂災害・地震・津波）に対する備えや対処方法等の災害時に役立つ情報をまとめた防災ガイドと、各種災害が発生した場合における危険箇所等をまとめた防災マップ（ハザードマップ）で構成されています。もしもの時に備え、この防災マップを活用して次の項目を確認し、普段から目につきやすい場所に保管しておきましょう。

- まず、ご自身が住んでいる場所に災害の危険があるか確認しましょう
- 次に、自分たちが避難する場所を確認しましょう
- さらに、避難経路を実際に歩いて確認しましょう

ハザードマップについて

洪水ハザードマップ

国土交通省及び島根県が指定する「洪水予報河川（江の川）及び水位周知河川（八戸川、敬川）」の対象区間について、想定し得る最大規模の降雨により、その河川が氾濫した場合に浸水が想定される区域やその浸水深、家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流、河岸侵食）を示しています。

土砂災害ハザードマップ

島根県が土砂災害防止法に基づき平成31年4月1日時点で指定している土砂災害警戒区域（イエローゾーン）、土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）を示しています。

地震ハザードマップ（揺れやすさ・液状化の危険度）

島根県が平成30年3月に公表した「島根県地震・津波被害想定調査報告書」に基づき、江津市で最も大きな影響をおよぼすとされる地震を想定した揺れやすさと液状化の危険度を示しています。

津波ハザードマップ

島根県が平成29年3月に公表した「津波浸水想定」に基づき、島根県に影響をおよぼす海域地震に伴い想定される、最大となる江津市の津波浸水想定区域等を示しています。

ハザードマップ利用上の注意点

- ハザードマップは災害の危険性が高い箇所を示したものです。
- 危険箇所以外は安全であるということを示したものではありません。
- 地震による被害や内水氾濫などは、どこでも起こる可能性があります。
- 想定外の災害が起こることもありえます。
- 様々な状況を想定して、どのような対処をしたら良いかを考える材料にしてください。

目 次

～ 防災ガイド ～

日頃からの備え ―― 3…6

・自助、共助、公助で防災力を高める
・日頃から確認しておくこと
・備蓄品・非常用持出品
・災害に備えて屋外を点検
・災害に備えて屋内を点検
・家具類の安全対策

水害から身を守る ―― 7…9

・雨の降り方と雨量
・注意報や警報の意味を理解しておこう
・洪水災害とは
・洪水のおそれがあるときの避難行動
・地下空間の危険性
・道路網・鉄道網の浸水について
・避難情報の種類と避難行動及び水位と洪水予報の関係

土砂災害から身を守る ―― 10

・土砂災害の種類と前兆現象

豪雨災害における避難について ―― 11

火災対策 ―― 12

・火災を防ぐために
・火災が起きてしまったら

震災から身を守る ―― 13…14

・地震発生時の避難行動
・自宅や建物内にいる場合
・外出先にいる場合

避難生活について ―― 15

・避難生活
・避難所生活の心得

避難情報について ―― 16

・避難情報の種類
・避難情報の入手経路

防災情報について ―― 17…18

・防災情報の入手先
・災害時の連絡方法

～ 避難所一覧 ～

避難所一覧 ―― 19…22

～ ハザードマップ ～

洪水・土砂災害ハザードマップ ―― 23…70

地震ハザードマップ（揺れやすさ、液状化の危険度） ―― 71…72

津波ハザードマップ ―― 73…82

日頃からの備え

災害の発生に備え、江津市は国・島根県等の関係機関と協力しながら、さまざまな防災対策を実施しています。しかし、災害から一人でも多くの命を守るためには、市民一人ひとりや地域の方々の協力が欠かせません。

自助、共助、公助で防災力を高める

大規模災害の発生時、市や消防、警察などが迅速に救出・救助、消火活動ができるようにするためにも、市民一人ひとりが地域の人たちと協力しながら率先して行動することが大切です。

自助

自分（家族）の身体・命を自分で守ること

主な取り組み

- 家庭での備蓄（非常用持出品、備蓄品）
- 住宅の耐震化、家具の転倒防止
- 被災時の連絡手段・安否確認手段の確認
- 避難所・避難経路の確認
- 自主防災活動への参加

共助

近所や地域コミュニティ、自主防災組織、企業などが共に助け合うこと

主な取り組み

- 地域の防災訓練の実施
- 災害発生時の安否確認、避難誘導
- 地域の高齢者、障がい者等の支援

公助

行政機関、消防、警察などによる救助・支援

主な取り組み

- 防災対策の整備
- 地域防災計画の策定、実施
- 災害復旧への取り組み
- 自助、共助への支援
- 防災訓練の実施

日頃から確認しておくこと（定期的に家庭で防災について話し合いましょう）

いざという時に家族があわてずに行動できるよう、家族防災会議を開いて次のようなことを話し合い、家族一人ひとりの役割分担や対処方法を決めておきましょう。

家族での話し合いと準備

- 家の中で一番安全な場所を確認する。
- 要配慮者（ご高齢の方、障がいのある方、乳幼児等）がいる場合は、その支援方法を決める。
- 非常時の役割分担を一人ひとり決める。
- 避難等で家族が離ればなれになったときの連絡方法、集合場所を決める。
- 自宅から避難場所まで、複数のルートで実際に歩いてみる。
- 食料やラジオの電池等の備蓄品を点検する。
- 避難時の持出用品を日頃から準備し、すぐに持ち出せるようにする。
- 家の内・外の危険箇所をチェックする。
- ペットがいる場合は、同行避難に備え、備蓄品や避難方法を考えておく。

日頃からの確認を

- 地図上であなたの家と避難場所を確認し、避難場所までの道順を防災マップに書き入れる。
- 家族や近所同士で避難場所まで実際に歩き、避難経路を確認する。

大規模な災害が発生すると、道路・鉄道等の被害により物流が止まり、物資が不足する事態も予想されます。食料品や生活に必要な物品を最低3日分（できれば1週間分）準備しておきましょう。

日頃から、大規模災害時には、電気・ガス・水道などのライフラインが止まることを想定して、次のような備蓄品を準備しておきましょう。

備蓄品・非常用持出品

飲料水・生活用水

- □ 3日分の飲料水の備蓄（1人×3リットル×3日）
- □ 生活用水
- □ 水筒

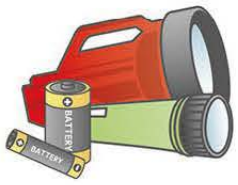
食料品等

- □ 3日分の食料の備蓄
- □ レトルト食品　□ 缶詰
- □ おやつ　□ 紙コップ
- □ ラップ　□ 簡易食器
- □ はし、スプーン等
- □ 缶切りナイフ　□ 粉ミルク

医薬品等

- □ 救急用品（消毒液、傷薬、ガーゼ、包帯、ばんそうこう）
- □ 常備薬　□ カット綿
- □ はさみ　□ ピンセット
- □ 使い捨てカイロ　□ 体温計

停電への備え



- □ 予備の電池
- □ 懐中電灯（大型／小型）

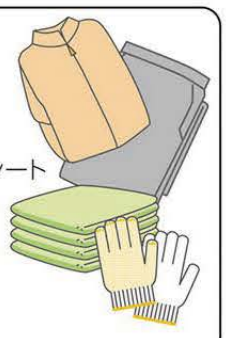
情報

- □ 携帯電話
- □ ポータブルラジオ
- □ 充電器
- □ モバイルバッテリー

燃料の備え

- □ 卓上カセットコンロ
- □ ボンベ
- □ 固形燃料

衣類等・衛生用品



- □ 衣類　□ タオル
- □ ティッシュ　□ マスク
- □ ウェットティッシュ　□ 除菌シート
- □ 生理用品　□ 軍手
- □ 紙おむつ　□ 簡易トイレ
- □ トイレットペーパー
- □ 歯磨き用品　□ ゴミ袋

その他

- □ ライター　□ ランプ
- □ 寝袋　□ ローソク
- □ 筆記具・マーカーペン
- □ ガムテープ
- □ 新聞紙　□ ロープ　□ 笛

非常用持出品

- □ 非常用持出袋
- □ 現金（小銭）
- □ ヘルメット
- □ レインコート
- □ 健康保険証　□ 通帳　□ カード
- □ 印鑑　□ 非常食　□ 飲料水

その他必要な物品

家庭環境によっては、上記の物品以外にも用意しなければならない物があります。以下の例を見ながら考えてみましょう。

◆乳幼児がいる家庭の例

ミルク、哺乳瓶、離乳食、スプーン、おむつ、洗浄綿、おぶい紐、バスタオルまたはベビー毛布、ガーゼ、バケツ、ビニール袋、石けんなど

◆妊婦がいる家庭の例

脱脂綿、ガーゼ、サラシ、T字帯、洗浄綿、新生児用品、ティッシュ、ビニール風呂敷、母子手帳、新聞紙、石けんなど

◆要介護者がいる家庭の例

着替え、おむつ、ティッシュ、障害者手帳、補助具などの予備、常備薬（お薬手帳）など

◆外国人の例

パスポート、外国人登録証

◆ペットがいる家庭の例

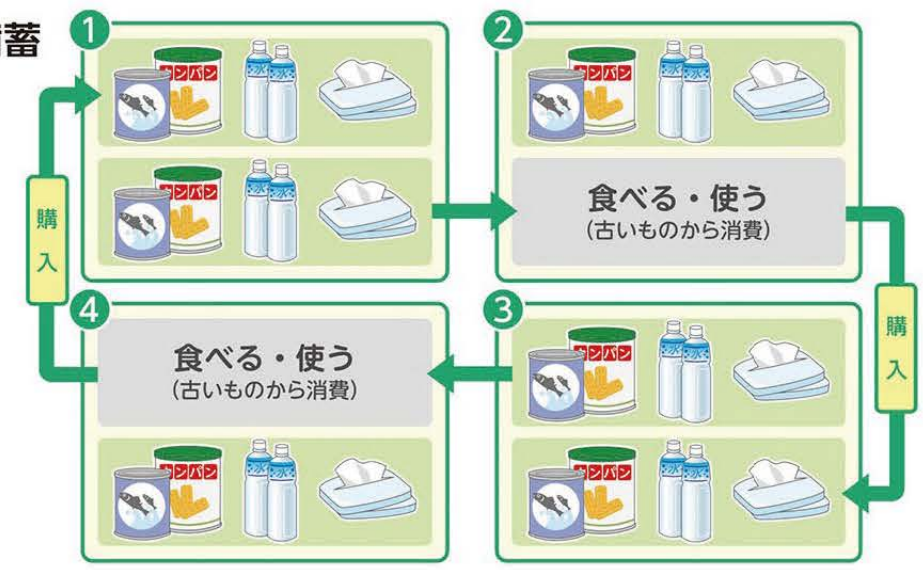
ペットフード、ケージ、首輪、リード、トイレ用品など

ローリングストック法による食料品・日用品備蓄

日頃から自宅で利用しているものを少し多めに備えることで、災害時に自宅である程度生活することが可能となります。

常温保存が可能なもの（カップめん・袋ラーメン等）や、そのまま食べられるレトルト・加工食品（ごはん・おかず・汁物等）、賞味期限が長いものなど普段から食べられるものが良いでしょう。またトイレットペーパーなどの日用品も余分に1セット用意しておきましょう。

必要分より多めに備え、日常の中で随時消費補充する備蓄方法なので特別な準備は必要ありません。このような備蓄方法を「ローリングストック法」といいます。

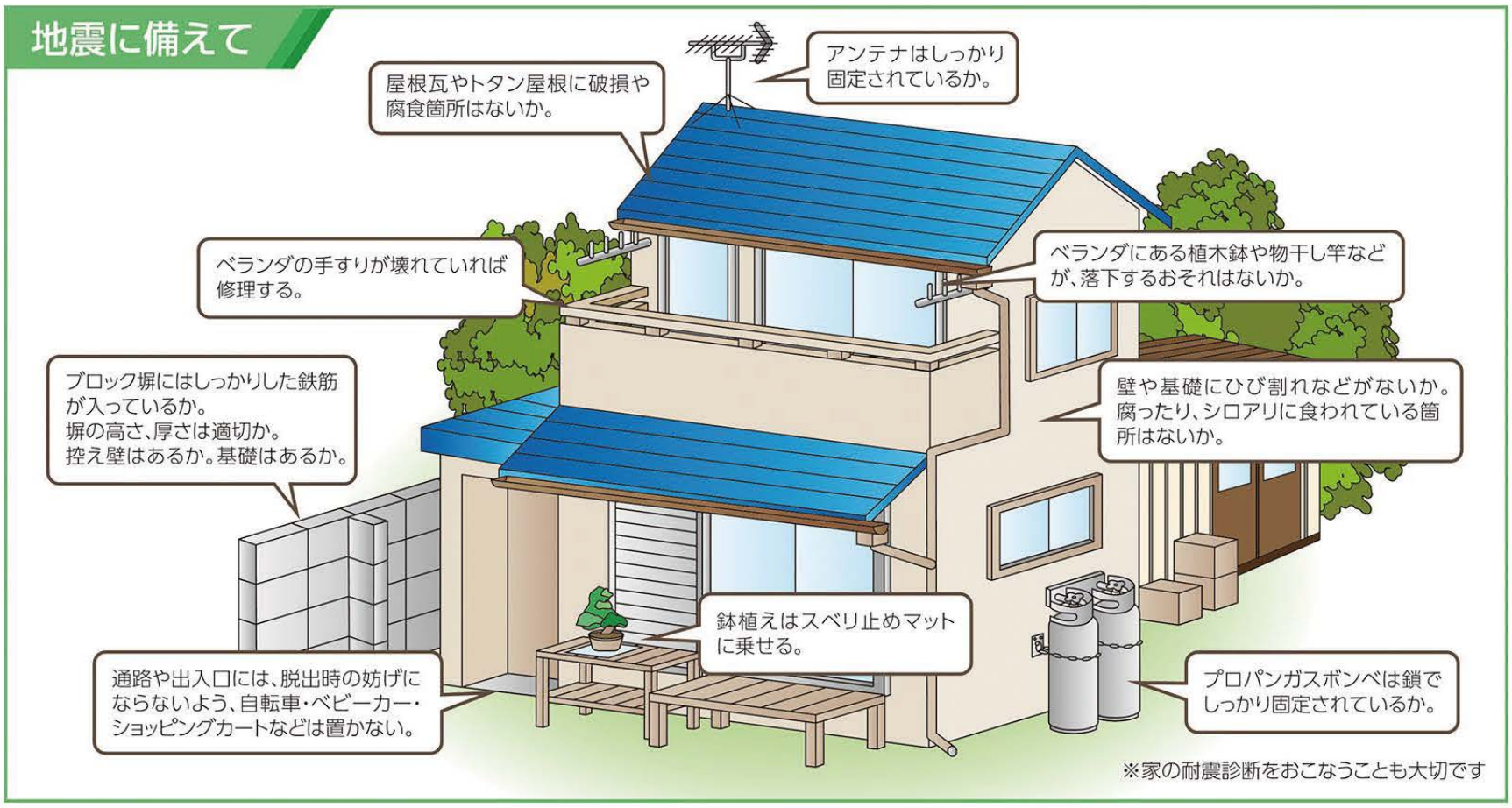


日頃からの備え

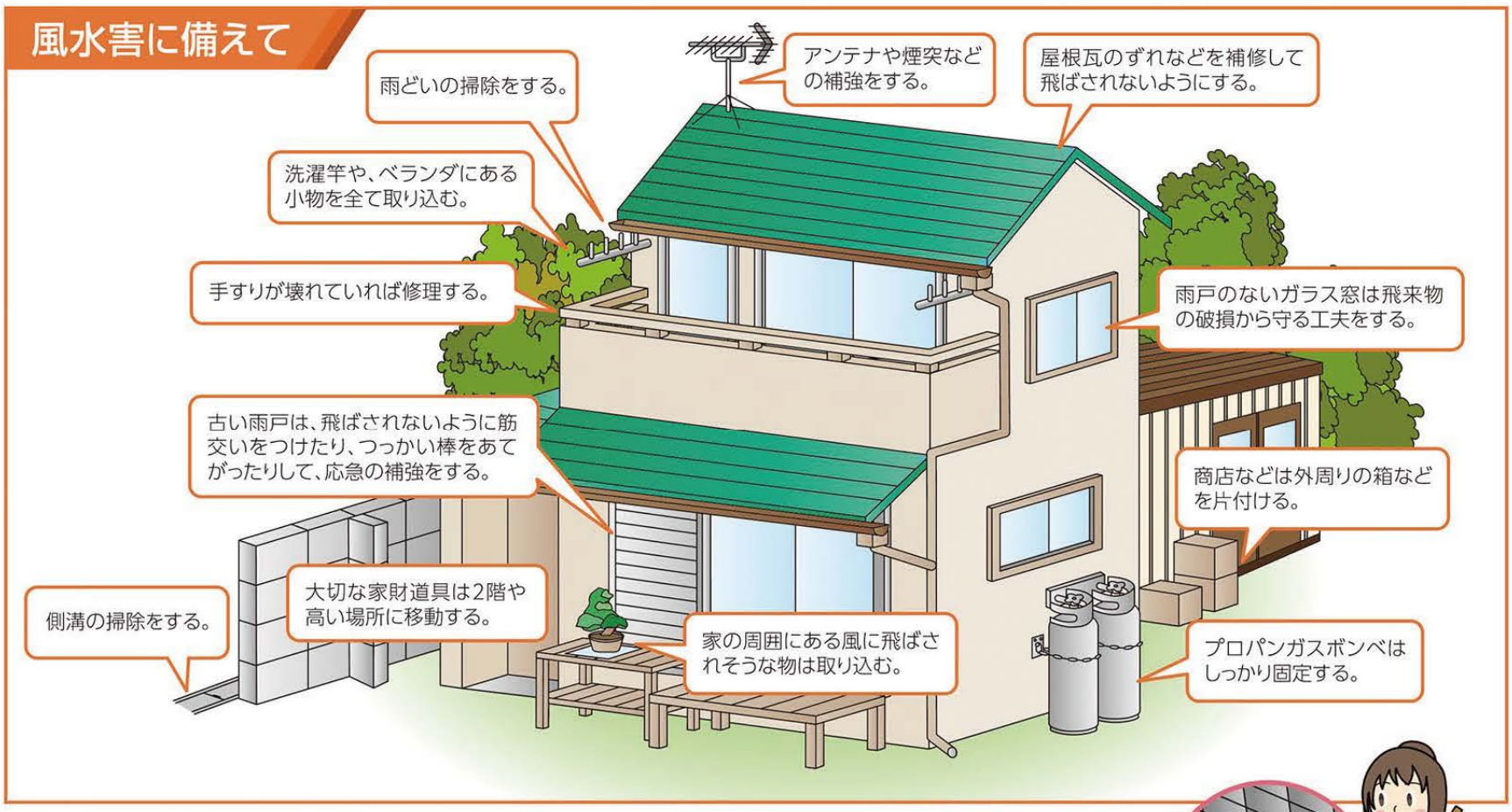
個人の生命や財産を守るためには、皆さん一人ひとりはもちろん、家族が協力して災害に備えておく必要があります。地震や水害などに備えて、ご自宅の屋外・屋内、周囲について、災害に対する安全性を点検しておきましょう。

災害に備えて屋外を点検

地震に備えて



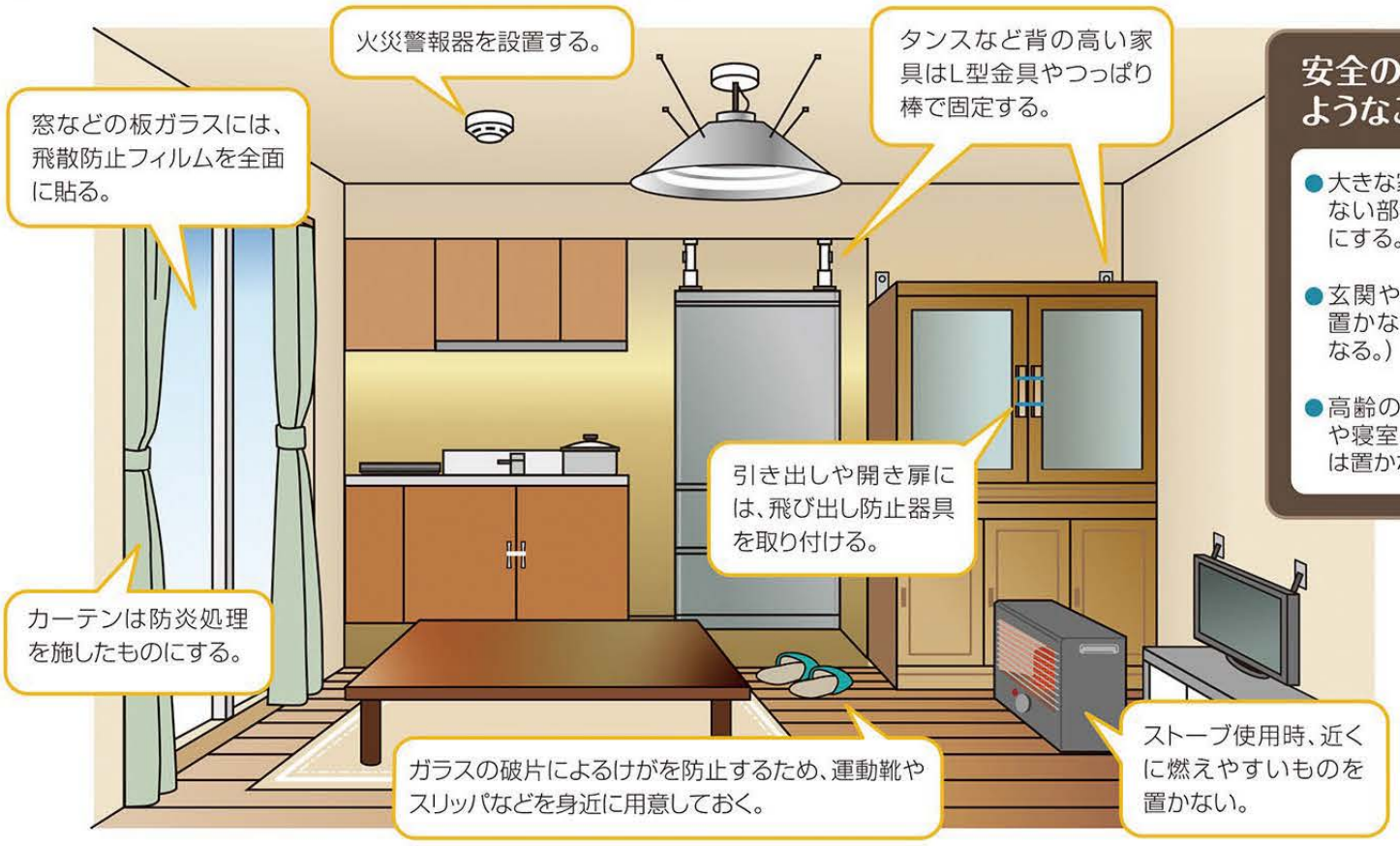
風水害に備えて



◆ 側溝や雨水ますの掃除を

- 道路沿いの「側溝」や「雨水ます」の上に物を置かないようにしましょう。
- 側溝や雨水ますが詰まると、道路冠水や住宅浸水の原因になります。日頃から清掃をしましょう。

災害に備えて屋内を点検



安全のために、以下のようなことも大切です。

- 大きな家具は人の出入りの少ない部屋にまとめて置くようにする。
- 玄関や廊下に家具や荷物を置かない。(避難時の妨げになる。)
- 高齢の方や子供のいる部屋や寝室には、倒れやすい家具は置かない。

家具類の安全対策

大きな地震では、家具の転倒や食器等の散乱により、避難が遅れたりケガをすることもあります。これらのケガを防ぐために、自宅の家具にL型金具等を取り付け、家具の転倒防止を行いましょう。

壁への穴あけ等が難しい賃貸住宅では、つっぱり棒や粘着性マットなどを効果的に使用して備えましょう。

すぐできる転倒防止対策

- 家具の下に滑り止めマットを敷く。
- 重いものを下に、軽いものを上に収納して倒れにくくする。

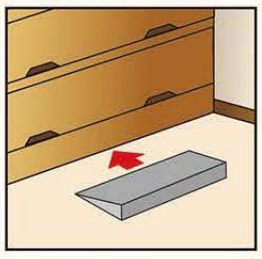
- 家具と天井の隙間を、弱粘着性のマットを挟んだダンボール箱などでつめ、天井と箱の隙間は2cm以内にする。

家具類の転倒防止

■ タンスなどの大型家具

L型金具やベルト式器具などで家具と壁を固定する。

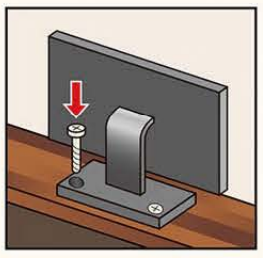
ストッパー式器具で家具を壁側に傾斜させる。



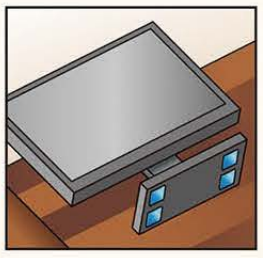
家具と天井の間をつっぱり棒などで固定する。

■ 液晶テレビ

テレビ本体とテレビ台をボルトなどで固定する。



テレビ本体とテレビ台をストラップ式器具や粘着性マットなどで固定する。



テレビ本体と壁や柱をロープとヒートン(金具)などを利用して連結する。

■ その他の転倒防止対策

二段重ねの家具は、連結固定器具で上下を連結して一体化させる。

引き出しや開き扉には、飛び出し防止器具を取り付ける。

本棚などには、落下を防ぐ抑制テープや器具を取付けるか、すべり止めシートを敷く。

水害から身を守る

気象台からの気象情報は、市町村ごとに発表されます。万一に備え、市民の皆さんも日頃からテレビ、ラジオなどで気象情報を確認するように心がけましょう。

雨の降り方と雨量

降っている雨を観察することで、だいたいの雨量を知ることができます。危険な状態になる前に自分で判断して避難ができるよう、雨の降り方と雨量の関係を知っておきましょう。

雨の降り方 1時間雨量 (mm)	やや強い雨 10～20mm	強い雨 20～30mm	激しい雨 30～50mm	非常に激しい雨 50～80mm	猛烈な雨 80mm 以上
人の受けるイメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る	滝のように降る (ゴーゴーと降り続く)	息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じる
人への影響	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	傘をさしてもぬれる		傘はまったく役に立たなくなる	
屋内 (木造住宅の場合)	雨の音で話し声がよく聞き取れない	寝ている人の半数くらいが雨に気がつく			
屋外の様子	地面一面に水たまりができる		道路が川のようになる	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	
車に乗っていて	ほとんど影響なし	ワイパーを速くしても見づらい	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる	車の運転は危険	
災害発生状況	この程度の雨でも長く続くときは注意が必要	側溝や下水、小さな川があふれ小規模のがけ崩れが始まる	がけ崩れが起こりやすくなり危険地帯では避難の準備が必要 下水管から雨水があふれる	地下室や地下街に雨水が流れ込む場合やマンホールから水が噴出する場合がある 土石流が起こりやすくなるなど多くの災害が発生する	雨による大規模な災害の発生するおそれが強く厳重な警戒が必要

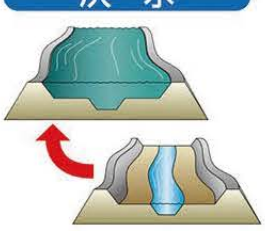
注意報や警報の意味を理解しておこう

気象庁は、大雨や強風などによって災害が起こるおそれのあるときは、その危険度に応じて「注意報」、「警報」、「特別警報」を発表して注意や警戒を呼びかけます。これら注意報･警報･特別警報は、都道府県や市町村へ伝達され防災活動等に利用されるほか、市町村や報道機関を通じて住民へ伝えられます。

名　称	発表基準	種　　類
注意報	災害が起こるおそれのあるとき	大雨、洪水、強風、風雪、大雪、波浪、高潮、雷、融雪、濃霧、乾燥、なだれ、低温、霜、着氷、着雪
警　報	重大な災害が起こるおそれのあるとき	大雨、洪水、暴風、暴風雪、大雪、波浪、高潮
特別警報	重大な災害が起こるおそれが著しく大きいとき (数十年に一度の大雨などの気象現象となることが予想される場合)	大雨、暴風、暴風雪、大雪、波浪、高潮

洪水災害とは

洪　水



洪水とは、雨などにより川の水量が普段より著しく増えた状態をいいます。

河原へ行くと広い敷地のわりに中心部しか水が流れていません。これが通常の姿です。

ところが、川幅いっぱいに水がおしよせると、広い河原も水の下にかくれて見えません。このように異常に水が増えたときを「洪水」といいます。

水　害

水害とは、水によって起こる災害のことで、外水氾濫も内水氾濫も水害と呼ばれます。

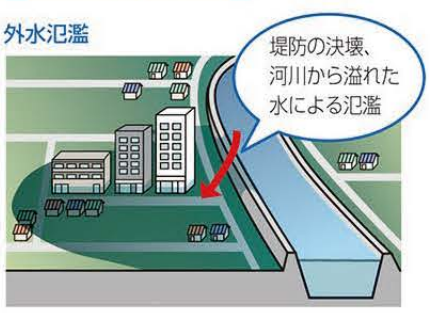
ただし、海水による水害の場合は、高潮災害、津波災害といった呼び方をします。

氾　濫

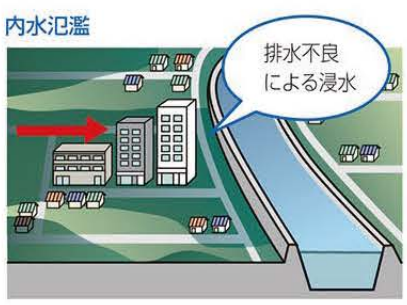
氾濫とは、雨などにより、住宅地や農地などに水が溢れることをいいます。川から水が溢れたり、堤防が決壊して起こることを「外水氾濫」といいます。

川から水が溢れるのではなく、街中の排水が間に合わず、水路などから溢れ出すなど、降った雨がそのままたまって溢れることを「内水氾濫」といいます。

外水氾濫



内水氾濫



大雨による浸水の危険があるときは、自ら情報を入手し速やかに避難をしましょう。普段から安全な避難経路を確認しておき、避難時は助け合い、落ち着いて行動しましょう。また河川の近くやアンダーパス（道路を掘り下げて交差する道）、地下空間は避けましょう。

洪水のおそれがあるときの避難行動

【危険な場所に近づかない】

河川などの様子を見に行くなどの行動は控えましょう。またアンダーパスや周囲より窪んでいる場所などは冠水のおそれがあります。局地的な豪雨により小さな水路等はあふれる可能性もあります。危険な箇所を避ける避難経路を日頃から確認しておきましょう。

【あわてずに避難】

動きやすい服装で運動靴を履いて避難するようにしましょう。長靴は水が入って重くなり、動きづらくなる可能性があるため、洪水時の避難には適しません。

避難先を確認し、家族や知人などに避難したことを連絡しておきましょう。

【避難時の注意点】

浸水の深さが高くなる前に早めに避難をするようにしましょう。外れたマンホールや側溝などの危険があるので、棒を杖代わりにするなど、安全に注意して避難しましょう。

【情報収集と自主避難】

テレビ･防災行政用無線戸別受信器･ラジオ･インターネットなどで気象、災害、避難に関する情報を入手しましょう。洪水の危険が迫ったときは、市や消防団からの避難の呼びかけがあります。

また、指示がなくても危険を感じた場合は自主避難を心がけましょう。

【協力しあって避難】

単独での避難はできるだけ避け、避難が困難な方をご近所の方などと助け合って避難しましょう。また車での避難は、冠水で動かなくなったり、緊急車両の妨げになることがあるため避けましょう。

【避難が困難なとき】

歩ける水の深さはひざ下程度までと言われており、それ以上浸水したときの避難はかえって危険です。やむを得ず避難所などへの避難ができない場合は、近くの頑丈な建物の上層階への避難、それも困難なときは家の中のできるだけ安全で高い場所に避難しましょう。

地下空間（地下室、地下街、地下駐車場など）の危険性

【屋外の様子がわかりません】

地下室などでは外の様子がわからないので、気象情報等に注意が必要です。また、屋外の天候に変化があったときは地下室内の人にも知らせましょう。

【階段は上れません】

地上が冠水すると、換気口や採光窓など、思わぬところから水が入ってくることがあります。また、流れ落ちる水の勢いで階段は上れないおそれがあります。

【停電するおそれがあります】

浸水すると停電するおそれがあります。

停電すると電灯が消え地下空間が真っ暗になったり、エレベーターが使えなくなったりします。

【ドアが開きません】

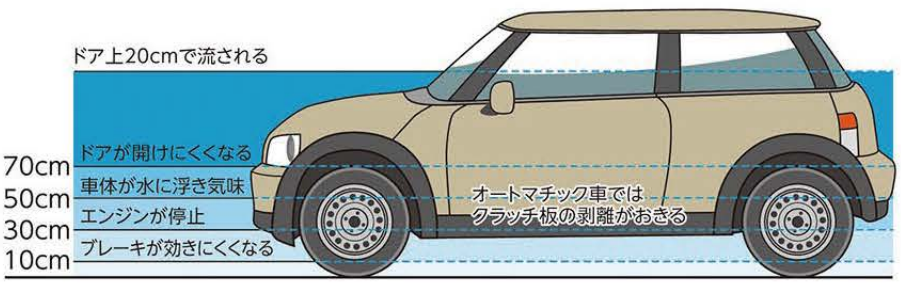
地上から流れ込む水の圧力で、ドアを開けることができなくなります。

30cmの浸水で成人男性でもドアを開けるのが困難になります。早めの避難が必要です。

道路網・鉄道網の浸水について

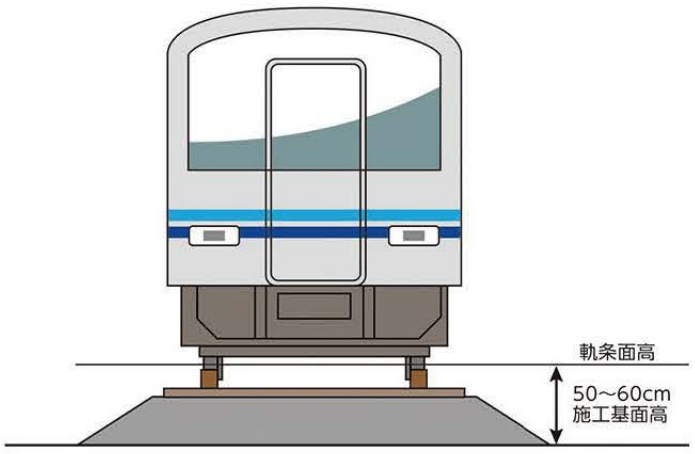
道路網

1. 冠水水位10cm（タイヤ半分）で、ブレーキが効きにくくなります。
2. 冠水水位30cm（ドアステップ）で、マフラーからの逆流してエンジンへ水が侵入し、エンジンが停止することがあります。特に、オートマチック車ではトランスミッション部に水が侵入し、クラッチ板の剥離現象が生じます。
3. 冠水水位50cm（ドアステップ上20cm）で、車体が水に浮き気味になります。大人でも水の中の避難は50cmを超えると困難になると言われています。
4. 冠水水位70cm（ドア半分）で、ドアが水圧によって開けにくくなります。水位がドアの上20cmにもなると車が浮き上がり流され始めます。



鉄道網

鉄道は一般的に地盤高（施工基面高）から50～60cmの高さに位置する軌条面高に達した時点で運行が不可能となりますが、道路とは異なり、多少の浸水であっても鉄道の安全運行に支障を来たすことから、運休することになります。

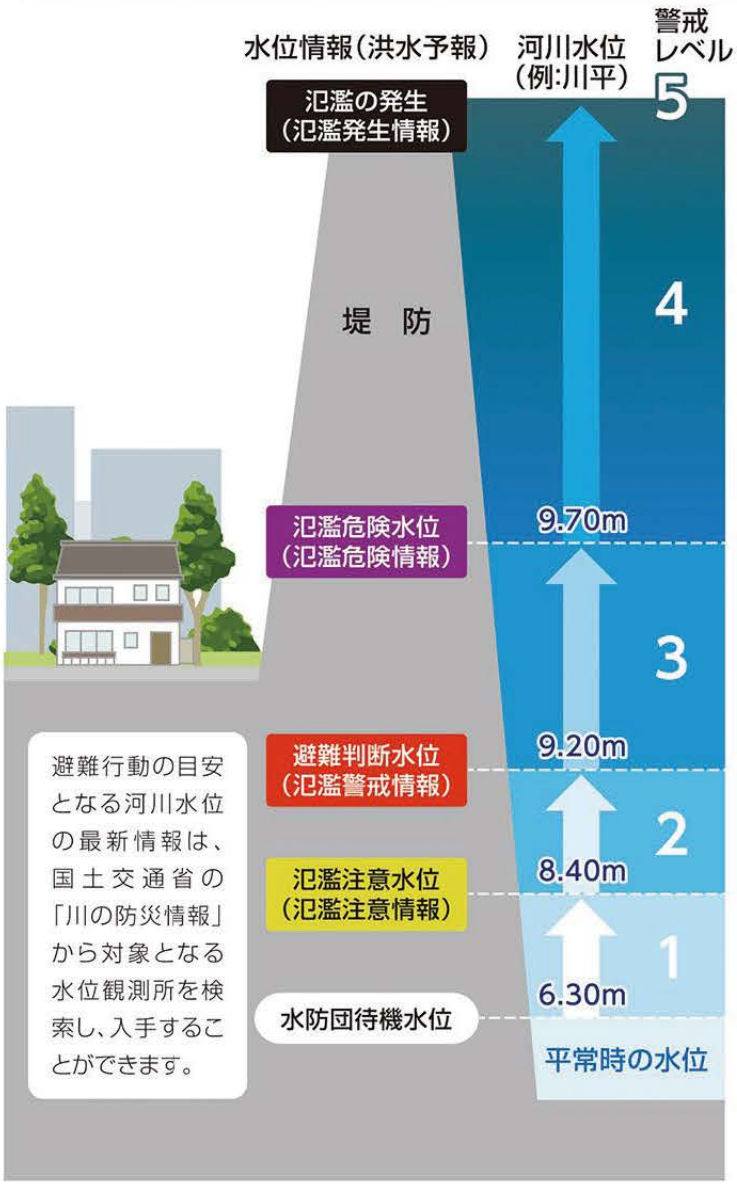


水害から身を守る

河川の水位が上昇し、氾濫の危険性が高まった場合は、河川を管理する国や県、気象庁が共同で、水位や防災に関する情報（警戒レベルなど）を発表します。市は、この情報を目安にして、雨の降り方などを総合的に判断した上で避難勧告等の避難に関する情報を発令します。

避難情報の種類と避難行動及び水位と洪水予報の関係

水害・土砂災害



水害・土砂災害について、市町村が出す避難情報と、国や都道府県が出す防災気象情報を、5段階に整理しました。

警戒レベル	避難情報等	取るべき行動	気象情報
5	**災害発生情報** 災害が実際に発生していることを把握した場合に、可能な範囲で発令	既に災害が発生している状況です。命を守るための最善の行動をとりましょう。	**警戒レベル5 相当** 氾濫発生情報 大雨特別警報　等
4	**全員避難** **避難勧告 避難指示（緊急）** 地域の状況に応じて緊急的又は重ねて避難を促す場合等に発令	速やかに避難先へ避難しましょう。避難場所までの移動が危険な場合は、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難しましょう。	**警戒レベル4 相当** 氾濫危険情報 土砂災害警戒情報 等
3	**高齢者等は避難** **避難準備・高齢者等避難開始**	避難に時間を要する人（ご高齢の方、障害のある方、乳幼児等）とその支援者は避難をしましょう。その他の人は、避難の準備を整えましょう。	**警戒レベル3 相当** 氾濫警戒情報 大雨・洪水警報　等
2	**注意報**	避難に備え、ハザードマップ等により、自らの避難行動を確認しましょう。	**警戒レベル2（相当）** 洪水注意報 大雨注意報　等
1	**早期注意情報**	災害への心構えを高めましょう。	**警戒レベル1**

避難の目安となる情報です

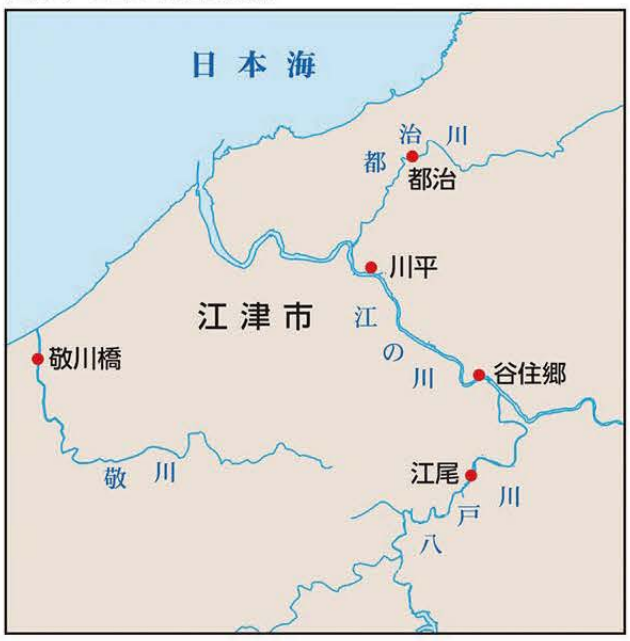
※各種の情報は、警戒レベル1～5の順番で発表されるとは限りません。状況が急変することもあります。

洪水予報の発表基準

洪水予報の発表基準と避難情報の段階、及び各水位観測所の基準水位

警戒レベル	洪水予報	発表基準（避難情報の段階）	洪水予報河川の基準水位観測所		水位周知河川等の主な水位観測所		
			江の川		八戸川	敬川	都治川
			川平水位観測所（松川町市村）	谷住郷水位観測所（桜江町谷住郷）	江尾水位観測所（桜江町市山）	敬川橋水位観測所（敬川町敬川）	都治水位観測所（都治町中都治）
5	氾濫発生情報（洪水警報）	氾濫の発生（災害発生情報相当）					
4	氾濫危険情報（洪水警報）	氾濫危険水位に到達（避難勧告、避難指示（緊急）相当）	9.70m	9.20m	3.30m	2.70m	–
3	氾濫警戒情報（洪水警報）	一定時間後に氾濫危険水位に到達が見込まれる場合、あるいは避難判断水位に到達し、さらに水位の上昇が見込まれる場合（避難準備・高齢者等避難開始相当）	9.20m	8.60m	2.80m	2.40m	–
2	氾濫注意情報（洪水注意報）	氾濫注意水位に到達し、さらに水位の上昇が見込まれる場合	8.40m	7.70m	2.60m	2.10m	2.60m
1		水防団待機水位に到達	6.30m	5.60m	1.70m	2.00m	1.50m

江津市の主な水位観測所

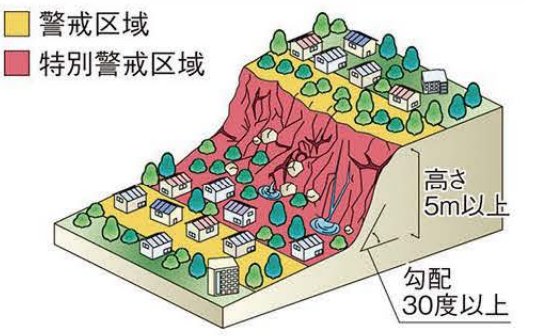


土砂災害から身を守る

土砂災害とは、土石流、急傾斜地の崩壊（がけ崩れ）、地すべりのことをいい、勾配の急な山やがけ、渓流のある地域に発生します。土砂災害のほとんどは、長雨や地震に起因し突然発生します。特に長雨や大雨の場合は、大量の水分が地中にしみ込み、その量が多いほど斜面の土が弱くなり、災害の発生する可能性が高くなります。このため、災害が発生するおそれのある区域をあらかじめ把握し、大雨などの際には気象情報の収集を行い、身の危険を感じたら早めの避難を心がけてください。

土砂災害の種類と前兆現象

がけ崩れ

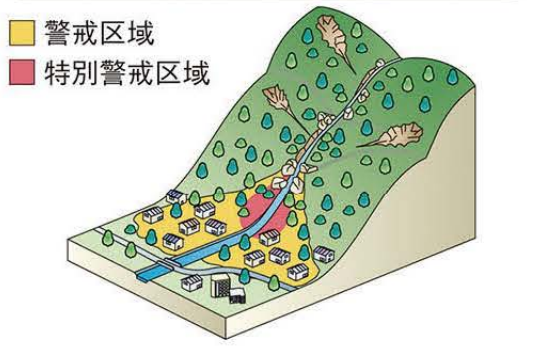


雨や雪どけ水、地震などの影響によって、急激に斜面が崩れ落ちる現象

このような前触れに注意!

- がけから水がわき出ている
- がけから小石がぱらぱらと落ちてくる
- 地鳴りがする
- がけにひび割れができる

土石流

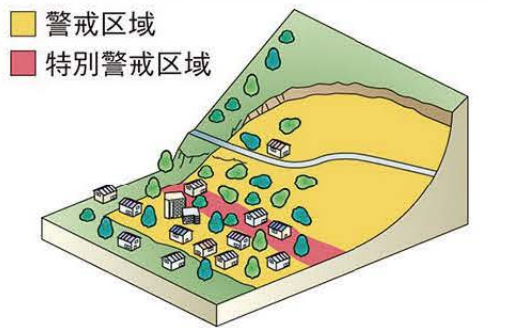


山や川の石や土砂が、大雨などにより水と一緒になって激しく流れ下る現象

このような前触れに注意!

- 山鳴りがする
- 急に川の水が濁り,流木が混ざりはじめる
- 雨が降り続いているのに川の水位が下がる

地すべり



雨や雪どけ水が地下にしみこみ、断続的に斜面が滑り出す現象

このような前触れに注意!

- 沢や井戸の水が濁る
- 地面にひび割れができる
- 斜面から水がふき出す

土砂災害警戒区域（イエローゾーン）

警戒区域は、土砂災害が発生した場合、住民の生命または身体に危害が生ずるおそれがあると認められる土地の区域。

土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）

特別警戒区域は、警戒区域のうち土砂災害が発生した場合に、建築物に損壊が生じ住民の生命または身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる土地の区域。一定の開発行為の制限,建築物の構造規制等が行われます。

※土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律

土砂災害警戒情報について

「土砂災害警戒情報」をご存じですか？ これは、大雨による土砂災害発生の危険度が高まったとき、市長が避難勧告などを発令する際の判断や、住民の皆様の自主避難の参考となるよう、県と気象庁が共同で発表する防災情報です。 ただし、土砂災害は地質や地形、地下水の状況などに大きく影響を受けるため、発生の詳細な情報を特定することはできません。土砂災害警戒情報が発表された場合はもちろん、発表されていなくても、斜面の状況などに注意を払い、前兆現象に気がついたら、直ちに安全な場所に避難し、市役所などに連絡しましょう。

大雨注意報
大雨によって災害が起こるおそれがある状況

大雨警報
大雨によって重大な災害が起こるおそれがある状況

さらに大雨が続くと

土砂災害警戒情報
大雨による土砂災害発生の危険度が高まった時、
都道府県と気象庁が共同で発表

避難時に注意すること

◆ まずは事前の確認!

土砂災害から避難するためには、事前に危険箇所を確認し、災害の前兆現象を知っておくことが大切です。

防災マップを使って確認しておきましょう。

◆ 寝る場所にも注意!

就寝中に発生する場合もあります。日頃から、がけから離れた2階の部屋に寝るなど土砂災害に備えましょう。

◆ 直角に逃げる!

がけ崩れの前兆現象を発見したら、斜面からできるだけ遠くに逃げましょう。土石流の場合は渓流を渡る事をさけ、土砂の流れる方向に対して直角に逃げるようにしましょう。

土砂災害（特に土石流）の場合、屋内安全確保を行っても家屋全体が倒壊、流失、埋没する危険性があるため、早めに立ち退き避難を始めましょう。

※ 屋内安全確保…自宅の斜面と反対側の2階等、可能な限り安全な場所への移動（避難行動）です。

※ 立ち退き避難…避難所への移動、自宅から安全な場所（公共施設、親戚、友人宅等）、近隣の堅牢で高い建物等への移動（避難行動）です。

豪雨災害における避難について

豪雨時の避難は、タイミングや災害の進展状況によって、一律に市指定の避難所に避難すれば良いというものではありません。災害発生をイメージして、自分が避難すべき場所やタイミングをあらかじめ確認しておきましょう。

豪雨災害

洪水害

●浸水想定区域・浸水深の確認
●避難所等の確認
（危険区域外に避難する事が大切です）
●避難経路の確認

大雨警報や河川水位の情報、市から発令される避難情報を収集

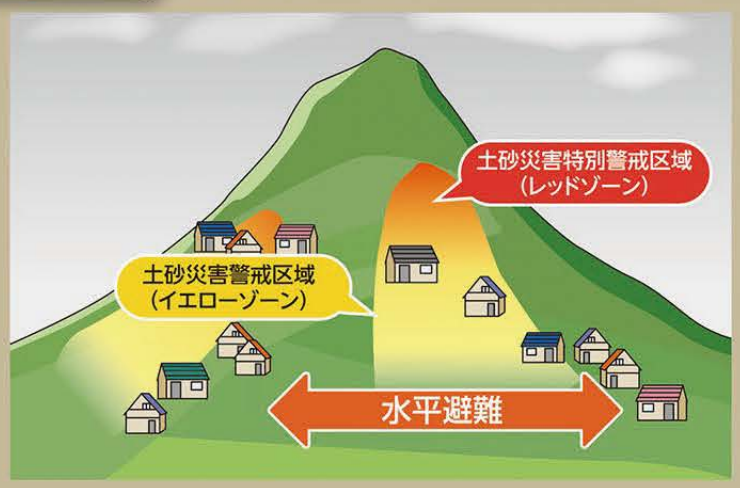
浸水前の早い段階で浸水想定区域外に避難することが最も安全

土砂災害

●危険箇所の確認
●避難所等の確認
（危険区域外に避難する事が大切です）
●避難経路の確認

大雨警報や今後の雨の降り方などの情報を収集、土砂災害の前兆現象に注意

風雨が強まる前の早い段階で土砂災害の危険区域外に避難することが最も安全



土砂災害警戒区域外
●避難所等の安全な場所
●親戚・知人宅
●自家用車の中

危険区域外への避難
水平避難

情報収集により、早めに危険区域から出る事が大原則ですが、浸水が始まったり、風雨が強まったりした中、屋外に出ることは危険が伴います

屋外での被災を避けるための避難
垂直避難

●自宅の2階部分
●近くの堅牢な建物の2階以上

●自宅の2階部分　●近くの堅牢な建物の2階以上
●がけ崩れ・土石流が襲ってくる方向からできる限り離れた部屋

火災対策

火災を防ぐために

火災はひとたび起きてしまうと財産だけでなく、自分や家族の命、近所の方の安全をも危険にさらしてしまいます。そんな火災の危険から身を守る一番の方法は『火災を起こさない』ことです。

火災の原因は想像以上に身近に潜んでいます。日頃から防火意識を持ち、火災の芽を摘んでおきましょう。

防火のチェックポイント

放　火
- □ 家の周囲に燃えやすいものを放置しない
- □ 車庫や物置には鍵をかける
- □ ゴミは収集日の朝、決められた場所に出す

コンロ
- □ 油を使った料理の際は火のそばを離れない、離れるときは必ず火を消す
- □ コンロの周りに燃えやすいものを置かない

ストーブ
- □ ストーブや電気器具で洗濯物を乾かさない
- □ 周囲に燃えやすいものを置かない
- □ 完全に消火してから給油する

たき火・草焼き
- □ 風が強い日、空気が乾燥しているときは、たき火や草焼きをしない
- □ 消火用の水を用意し、周囲の安全を確認する
- □ 終わるまでその場を離れず、必ず消火の確認をする

火遊び
- □ マッチやライターを子どもの手の届くところに置かない
- □ 普段から子どもに火の恐ろしさと正しい使い方を教える

電気器具
- □ たこ足配線はしない
- □ 傷んだコードやコンセントはすぐ修理・交換する
- □ 取扱い説明書をよく読み正しく使う
- □ コンセント周りは定期的に掃除する

たばこ
- □ 投げ捨て、寝たばこは絶対しない
- □ 灰皿に水を入れる
- □ 吸いさしを残したままその場を離れない
- □ ごみ入れに吸いがらを捨てない

火災が起きてしまったら

万が一火災が発生してしまったら『あわてず、騒がず、落ち着いて』行動しましょう。

①早く知らせる!

火災を発見したら大きな声で『火事だ!』と叫びましょう。
小さな火事でも消えかけてくすぶっている場合は速やかに119番通報をしてください。

②早く消火する!

火災は発見が早ければ早いほど消火が簡単です。出火から3分以内が勝負です。
まだ小さな火のうちなら水や身の回りの物、消火器などで十分消火可能です。

◆消火器の使い方

❶黄色いピンを引き抜く

ピンを抜かないとレバーが動かない構造になっています。

❷ホースを外し、火元に向ける

炎や煙にまどわされず燃えている物に向けてください。

❸レバーを握って消火粉末を噴射する

勢いよく粉末が出ますのでしっかりと握りましょう。
粉末が噴射される距離は約5m程度、時間は約10秒～15秒です。

③早く逃げる!

避難する時に恐れや焦り、迷いは禁物です。避難を決めたら再び中には戻らない。
服装や物にはこだわらないで逃げることだけを考えてください。
火災で恐ろしいのは炎と同時に煙です。有毒ガスが含まれていて吸い込むと中毒死や動けなくなってしまいます。煙を吸わないよう姿勢を低くして避難しましょう。

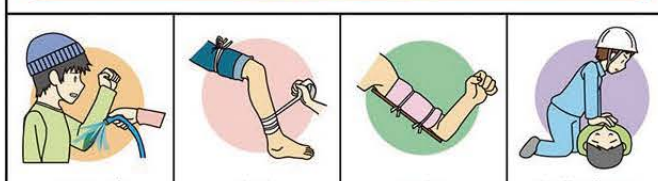
119番のかけ方

消防　通報者

▼火事の場合	▼救急の場合
消防:「119番江津消防です。火事ですか? 救急ですか?」	
通報者:「火事です!」	通報者:「救急です!」
消防:「住所はどこですか?」「近くに何(建物など)がありますか?」	
通報者:「江津市○○町○○番地です」「○○が近くに見えます」	
消防:「何が燃えていますか?」	消防:「どうされましたか?」
通報者:「台所が燃えています」	通報者:「頭が痛いです」
消防:「逃げ遅れやけがをした方はいませんか?」	消防:「かかり付けの病院はありますか?」
通報者:「全員避難して無事です」	通報者:「○○病院です」

消防:「最後にあなたのお名前とおかけの電話番号を教えて下さい」
通報者:「○○○○です。電話番号は○○-○○○○です」
消防:「はい、わかりました。消防車(救急車)が来たら誘導をお願いします」

応急手当・AED



やけど	出血	骨折	意識がない
水で冷やす	止血	固定	心肺蘇生法

突然人が倒れた場合
- ❶意識の有無を確認
- ❷周囲の人に119番通報とAEDの用意
- ❸呼吸の確認
- ❹胸骨圧迫(心臓マッサージ)30回
- ❺人工呼吸2回
- ❻AEDの使用

AEDマップ

あなたの勇気ある行動が大切な命を救います

震災から身を守る

地震が起きた場合、いる場所や時間の経過とともに取るべき行動が変わってきます。大きな揺れを感じたら、まずは身の安全を守り、揺れがおさまってから行動しましょう。

また、最近は強い揺れが来る前、あるいは強い揺れが来た後に、緊急地震速報が発表されます。緊急地震速報を見聞きしたときは、まわりの人に声をかけながら、周囲の状況に応じて、あわてず、まずは身の安全を確保しましょう。

地震発生時の避難行動

一斉安全確保（シェイクアウト）

※イラスト提供：効果的な防災訓練と防災啓発提唱会議

地震の揺れから身を守る「安全行動❶－❷－❸」

❶ まず低く … 強い揺れで自分が倒れる前に体勢を低くして地面に近づく。

❷ 頭を守り … 固定された机やテーブルの下に入って（なければ腕や荷物で）頭を守る。

❸ 動かない …揺れが止まるまで動かず、じっとしている。慌てて外に出ない。

緊急地震速報とは？

地震計でとらえたデータを解析し、到達時刻や震度を予想し、強い揺れが来る前に可能な限り早く知らせるシステム。

※震源に近いところでは速報が間に合わなかったり、予測された震度に誤差を伴う可能性があります。

予想震度4以上で
テレビ・ラジオ・携帯電話
などを通じて発表

自宅や建物内にいる場合

揺れを感じたら

【火元を確認】

- 揺れているときに火を消すのはナベなどが倒れて、ヤケドのおそれがあり危険。
- 揺れがおさまったらすべての火を消す。
- 避難するときはガスの元栓を閉め、電気のブレーカーを切る。

【出口を確保する】

- 玄関や窓を開けて出口を確保する。
- 玄関や窓が再び閉まらないように、手近なものをはさみこんでおく。

【落ち着いて行動する】

- 慌てて外に飛び出さない。
- 割れたガラスの破片などでけがをしないように運動靴等を履く。

揺れがおさまったら

【家族の安否を確認】

- 声をかけて家族の安否を確認する。
- 離れている家族とは、あらかじめ決めておいた方法で安否を確認する。（集合場所に集まる、災害用伝言ダイヤルの利用（P18参照）、親戚への伝言など）

【近所の人の安否を確認】

- 近所の人に声をかけて安否を確認する。
- 身体の不自由な方やお年寄りには特に注意を払う。
- マンションの場合は、エレベーターに人が取り残されていないか確認する。

【正しい情報を入手する】

- テレビやラジオ、防災行政用無線などから正しい情報を入手する。
- デマやうわさに惑わされない。

【みんなで避難】

- なるべく複数人で集まって避難する。

外出先にいる場合

揺れを感じたら

【道路・路地】

- ブロック塀や自動販売機、電柱など転倒・倒壊のおそれがあるもののそばから離れる。
- 窓ガラスや看板などの落下物に注意し、頭をカバンなどで保護する。

【運転中】

- 徐々にスピードを落とし、道路の左側に停車してエンジンを切る。
- 揺れがおさまるのを待ち、カーラジオ等で情報入手する。
- 避難するときはキーはつけたままにし、ドアをロックしない。

【繁華街・大きな建物】

- 商品棚から離れ、柱や壁際に身を寄せる。
- 最新のビルや地下街は、耐震性が高いので、無理に外には出ない。
- 店舗では場内放送や係員の指示に従って行動する。

【電車・バス】

- 立っている場合はつり革、手すりにつかまり、緊急停車・急ブレーキに備える。
- 座っている場合は姿勢を低くして頭部を守る。
- 乗務員の指示に従う。

【地下街】

- 停電時は、非常照明がつくまで落ち着いて待つ。
- 館内放送や係員の指示に従い、落ち着いて避難する。
- 火災発生時は、ハンカチなどで口と鼻を覆い、壁伝いに這うようにして移動する。

【エレベーター内】

- すべての階のボタンを押し、最初に停止した階で降りる。
- 閉じ込められた場合は、非常用電話で助けを求める。

津波から身を守る

旅行先など海岸や海に近い場所で地震を感じたら、揺れへの対応に加え、津波に注意しましょう。

- 「強い揺れ」や「弱くても長い揺れ」を感じたり、「津波警報」「津波注意報」を見聞きしたら、すぐに避難を始め、高台や避難ビルなど安全な場所へ避難しましょう。
- 津波は何度も発生し、あとから来る津波の方が高くなることがあります。
- 「津波警報」「津波注意報」が解除されて安全が確認されるまでは、決して海岸に近づかないようにしましょう。
- あらかじめ津波に対応した「緊急避難場所」や「避難高台」、「津波避難ビル」への経路を確認しておきましょう。

津波標識の種類

津波に対応した緊急避難場所

津波注意

津波避難ビル

避難生活について

大規模な災害が発生した場合、自宅または市が開設する避難所で避難生活を送ることになります。

避難生活

在宅避難

発災後など自宅で住み続けることが可能な場合、自宅で生活を送ることが基本となります。平常時に備蓄していた食料、飲料水、携帯トイレ等で生活を送ります。

避難所への避難

自宅を離れて避難所で生活することは、慣れない避難生活となることからストレスや過労などにより体調を崩してしまうことも考えられます。少しでも負担を減らすため避難所では決められたルールを守り、避難生活者同士で協力して支え合うことが大切です。

避難所生活の心得

生活ルールを守りましょう

- 起床や就寝の時間、トイレの使い方、喫煙場所、ペット同伴の可否など避難所のルールを守りましょう。
- ほかの人の居住スペースに立ち入ったり、のぞいたり、大声をあげたりするのはマナー違反です。

食物アレルギー等の方々

- 日頃から自分が食べられる食料を備蓄しておくようにしましょう。
- 自分が食べられる食料が備蓄されているか事前に確認しておきましょう。
- 被災したときに食物アレルギーであることが周りの人に分かってもらえるように工夫しましょう。

役割分担して運営に参加しましょう

- 避難者もできる範囲で、受け付けや清掃、炊き出し、物資の配布など役割分担をしましょう。
- 助け合いながら避難所運営に参加しましょう。

高齢の方や障がいをお持ちの方

- 避難する場所を事前に確認して、まわりの人に災害時に避難の協力をしてもらえるようコミュニケーションをとっておきましょう。

犯罪に気を付けましょう

- 避難所では窃盗や詐欺、性犯罪、押し売りなどの犯罪に注意して、怪しい人を見かけたら、警察官や施設担当者に連絡しましょう。

女性の方々

- 更衣室の利用方法、衣類や生理用品・薬などの物資の配布、女性専用の洗濯場所やトイレなど女性への配慮が必要です。避難所の運営などに女性の意見を活かしていくことが重要です。

健康や衛生の管理に気を付けましょう

- エコノミークラス症候群を予防するために、適度な運動と水分補給をしましょう。
- かぜやインフルエンザ等の感染症を予防するため、手指のアルコール消毒・手洗い・うがいをしましょう。換気、マスク、十分な睡眠をとることも大切です。
- 熱中症予防のため、水分補給、室温調整、衣服の工夫をしましょう。
- 食中毒の予防のため、手洗い、消毒、賞味・消費期限の確認をしましょう。
- トイレや浴室などの衛生を保ちましょう。

ペットのしつけと備蓄品の確保

- ペットとの同行避難に備えて、日頃からケージに入ることや首輪等に慣らしておくことや、決められた場所での排泄、犬の場合は「待て・おいで」、むやみに吠えない等、ペットのしつけをしておきましょう。
- また避難先においてはペットの飼育に必要なものは、基本的に飼い主が用意する必要があるので、ペットのための食料や飼育用具などを準備しておきましょう。

避難情報について

自然災害に対しては、「自分の命は自分で守る」という意識を持ち、自分は災害に遭わないという思い込み（正常性バイアス）に陥ることなく、自らの判断で避難行動をとることが大切です。

避難情報の種類

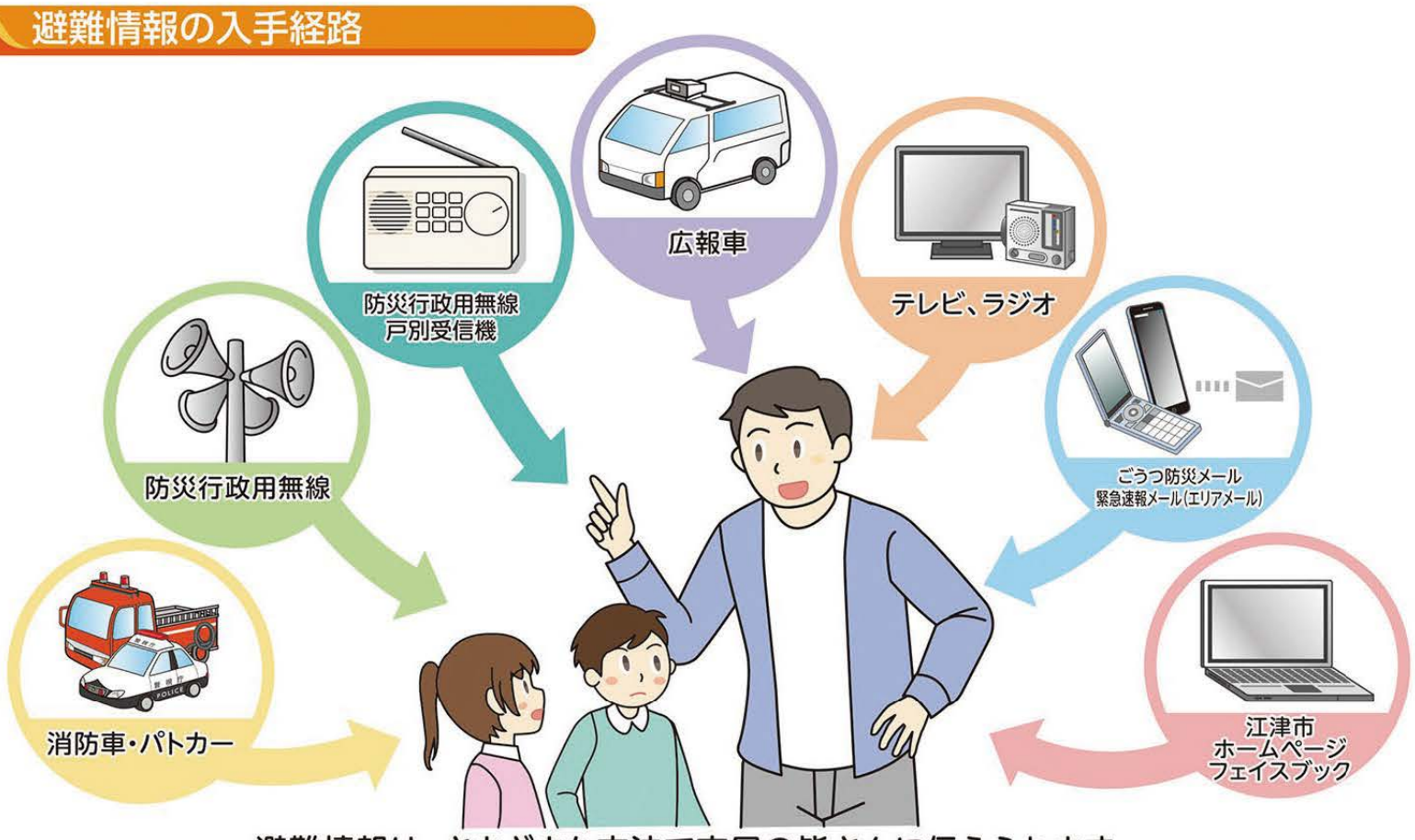
知っていますか? 避難情報の違い

市が、気象台や河川管理者、現場などの情報から避難が必要と判断した場合、危険度に応じて避難情報を発令します。
避難情報を正しく理解し、率先して避難行動を取りましょう。その行動が周囲の避難を促し、命を救うことにもつながります。

避難情報の種類	発令時の状況	どのような行動をとるべきか	警戒レベル
避難準備・高齢者等避難開始	災害の発生が予想される場合	◆いつでも避難ができるよう準備をしましょう。 ◆身の危険を感じる人は、避難を開始しましょう。 ◆避難に時間を要する人（ご高齢の方、障がいのある方、乳幼児をお連れの方等）は避難を開始しましょう。	3
避難勧告・避難指示（緊急）	災害による被害が予想され、人的被害が発生する可能性が高まった場合	◆避難場所（避難所又は安全な場所）へ避難しましょう。	4
災害発生情報	災害が発生するなど状況がさらに悪化し、人的被害の危険性が非常に高まった場合	◆まだ避難していない場合は、直ちにその場から避難をしましょう。 ◆外出することでかえって命に危険が及ぶような状況では、自宅内のより安全な場所に避難をしましょう。	5

※必ずしも、この順番で発令されるとは限らないので、ご注意ください。また、これらの情報が発令されていなくても、身の危険を感じる場合は避難を開始してください。

避難情報の入手経路



避難情報は、さまざまな方法で市民の皆さんに伝えられます。

防災行政用無線戸別受信機について

防災行政用無線戸別受信機からは下記の情報が流れます。

・定時放送 ――― 江津市からのお知らせ放送（毎日6時45分と20時00分）
・災害時放送 ――― 気象に関する注意喚起（台風情報や気象警報の発表情報等）
災害時の避難勧告等の避難情報
全国瞬時警報システム（J-ALERT）を使った国からの緊急情報
・臨時放送 ――― 江津市からの緊急的なお知らせ放送（通行規制など）

＊電源が抜けている場合や停電時に電池が切れている場合は放送が流れません。いざという時の緊急放送が受信できるよう、普段から電源を入れ、年1回程度の電池交換（単一乾電池2本）をお願いします。

防災情報について

災害が発生したり、発生するおそれがある場合に、市は避難に関する情報を発令します。

また、災害情報や気象情報はテレビやラジオ、各防災関係機関のホームページ等で確認できるので、日頃から情報の入手方法を確認するようにしましょう。

防災情報の入手先

江津市からの情報

情報発信手段	内　容	
防災行政用無線	市内に設置している江津市防災行政用無線のスピーカーにより情報を伝えます。 普段は、夕方のチャイムなどを試験放送として流しています。	
防災行政用無線 戸別受信機	各家庭の室内に設置している防災行政用無線戸別受信機から情報を伝えます。 普段は、毎日6時45分と20時00分の定時に江津市からのお知らせ放送を流しています。	
ごうつ防災メール	気象警報、避難情報などの防災情報や防犯情報等、市民の安全・安心に関する情報を提供します。事前にご登録いただいた携帯電話やスマートフォン、パソコンのEメールアドレスに情報を配信します。 登録は「bousai.gotsu-city@raiden.ktaiwork.jp」 に空メールを送信し、返信された登録用メールの内容に従って登録してください。	
緊急速報メール （エリアメール）	対象エリアにいる方の携帯電話及びスマートフォン（NTTドコモ、KDDI（au）、ソフトバンク）へ一斉配信します。 ※詳しくは18ページ参照。（事前登録は必要ありませんが、受信設定が必要となる場合があります。）	
江津市ホームページ 江津市　検索	避難情報や避難所の開設情報、防災行政用無線の内容等、全般的な情報を掲載します。	

島根県からの情報

情報発信手段	内　容
島根県ホームページ （しまね防災情報） しまね防災情報　検索	気象情報、雨量・水位情報、土砂災害情報などの防災情報が公開されています。
しまね防災メール	気象注意報・警報、地震・津波情報、また、島根県からの緊急情報など、基本情報が配信されます。事前にご登録いただいた携帯電話やスマートフォン、パソコンのEメールアドレスに情報を配信します。 登録は「register@bousai-shimane.jp」に空メールを送信し、返信された登録用メールの内容に従って登録してください。 日本語　外国人の方向けのQRコード　英語/English　中国語/中文　韓国語/한국어　ポルトガル語/Português　タガログ語/Tagalog　やさしいにほんご

その他の防災関係機関からの情報

情報発信手段	内　容
国土交通省ホームページ （川の防災情報） 川の防災情報　検索	全国の河川の雨量や水位、リアルタイム映像などの情報が公開されています。
気象庁ホームページ （防災情報） 気象庁防災情報　検索	全国の天気や防災情報が公開されています。 ◆ 気象警報・注意報　◆ 危険度分布（土砂災害、浸水害、洪水）　◆ 台風情報（台風） ◆ レーダー・ナウキャスト（降水、雷、竜巻）　◆ 雨雲の動き「高解像度降水ナウキャスト」（雨量情報）など
浜原ダムの放流情報	0855−75−1901 自動音声により、浜原ダムの放流量や上流の江の川ダムの河川流量を聞くことができます。

データ放送や防災アプリ

情報発信手段	内　容
テレビによるデータ放送	テレビのdボタンを押すとデータ放送が閲覧できます。市内の時間降水量や発表されている注意報、警報、避難所の開設状況などが表示されます。テレビ局によって表示内容が異なりますので、平時からご確認ください。
防災アプリ	一部の携帯電話では、緊急地震速報やエリアメール、緊急速報メール等が受信できない場合があります。 もし、受信できない場合でも、スマートフォンにYahoo!やNHK、NTTレゾナント等が提供する防災アプリをインストールすれば、あわせて避難情報や気象情報等も確認できます。

災害時の連絡方法

災害用伝言ダイヤル（171）

災害時には、安否確認、問い合わせなどの電話が急増し、電話がつながりにくい状況が続くときがあります。そのような時、この「NTT災害用伝言ダイヤル」を使って、家族や知人に伝言を録音したり、相手方の伝言を再生することができます。

- 「171」をダイヤルし、利用ガイダンスにしたがって伝言の録音・再生を行ってください。（右図参照）
- 「災害用伝言ダイヤル」に登録できる電話番号は、被災地内の固定電話番号及び携帯電話・PHS・IP電話の電話番号です。被災地内からご利用の場合も固定電話番号は必ず市外局番からダイヤルしてください。
- 録音された伝言は、被災地の人の電話番号を知っているすべての人が聞くことができます。
- 提供開始や録音件数等、提供条件についてはNTTで決定し、テレビ・ラジオ等でお知らせします。

電話で録音

1 7 1 をダイヤル
↓
録音は 1 を入力（暗証番号を利用した録音は 3 です。）
↓
被災地の方の 電話番号 の番号を入力（携帯電話等の番号でもご利用いただけます。）
↓
続けて 1 を入力（ダイヤル式の方はそのままお待ちください。）
↓
メッセージを録音
↓
9 で終了

電話で確認

1 7 1 をダイヤル
↓
再生は 2 を入力（暗証番号を利用した録音は 4 です。）
↓
被災地の方の 電話番号 の番号を入力（携帯電話等の番号でもご利用いただけます。）
↓
1 で伝言の再生開始（ダイヤル式の方はそのままお待ちください。）
↓
繰り返し再生は 8
次の伝言の再生は 9
↓
再生後のメッセージの録音は 3

災害用伝言板（web171）

災害時にインターネットから「災害用伝言板（web171）」にアクセスし、文字情報で安否情報の登録、確認ができます。

NTT西日本 web171
https://www.web171.jp/

災害用伝言ダイヤル「171」 災害用伝言板（web171） 体験利用提供日	・毎月1日 及び15日 ・正月三が日（1月1日～1月3日） ・防災とボランティア週間（1月15日～1月21日） ・防災週間（8月30日～9月5日）	※伝言録音時間：30秒 伝言保存期間：体験利用期間終了まで 伝言蓄積数　：電話番号あたり20伝言

災害用伝言板（携帯電話・スマートフォン）

震度6弱以上の地震などの大きな災害が発生した時に、携帯電話等を利用して自身の安否情報の登録、家族や友人の安否情報を確認することができます。

NTTドコモ
http://dengon.docomo.ne.jp/top.cgi

ソフトバンク
http://dengon.softbank.ne.jp/

KDDI（au）
http://dengon.ezweb.ne.jp/

緊急速報メール・エリアメール

緊急速報メール（KDDI（au）、ソフトバンク）・エリアメール（NTTドコモ）は、気象庁が発表する緊急地震速報などや、国や市町村などが発表・発令する災害・避難情報、国土交通省が発表する指定河川洪水予報を、対象エリアにいる携帯電話・スマートフォンの利用者に一斉配信するサービスです。

使用料金や通信料などは無料ですが、一部の機種ではあらかじめ受信設定を行っておく必要があるほか、緊急速報メール・エリアメールに未対応の機種もあるので、自分の携帯電話・スマートフォンが受信可能な設定になっているかを確認しておきましょう。

緊急速報メール・エリアメールの特徴

- 配信されると専用の警報音が鳴る
- 携帯電話・スマートフォンの画面にメッセージを表示

配信される内容

【 気象庁 】
- 緊急地震速報
- 津波警報
- 気象等に関する特別警報

【 国・市町村 】
- 災害・避難情報

【 国土交通省 】
- 指定河川洪水予報

国からの緊急情報「J－ALERT」（全国瞬時警報システム）

J-ALERT（ジェイアラート）は、国が人工衛星を用いて緊急情報を送信し、国民が対処する時間的余裕がない緊急情報を伝えるシステムです。

J-ALERTは、国の送信局から人工衛星を介して市町村庁舎などに設置されているJアラート受信機に緊急情報が送信され、さらに自動的に防災行政用無線や緊急防災放送装置（告知放送端末）、緊急速報メールなどから国民に緊急情報が伝達されます。

J-ALERTで配信される情報には、緊急地震速報や噴火警報、気象等の特別警報などのほか、弾道ミサイルや大規模テロ情報などがあります。